

教団新報

定 価 1 部 140 円 (本体 133 円 千共 200 円)
予約購読料 1 年分 千共 5,000 円
紙代のみ 3,500 円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
発行人 竹 前 昇
編集主筆 竹 澤 知 代 志
印 刷 所 株式会社きかんし



検定試験学科問題に挑む受験者 (京都会場)

春季教師検定試験

召命に応えるべく受験者総数78名

神学の基本的学びを問う

二〇〇五年春季教師検定試験は、三月一日～三日、東京と京都の両会場で行われた。今回の受験者総数は七十八名であった。試験直後の委員会での学科試験判定によると、補教師試験全体では七十三名が受験した。うち合格者は四十四名、保留者八名、不合格者二名であった。Cコース受験者二名のうち一八名が、またBコース受験者一名が継続となった。また昨年の正教師試験で科目が残った五名が再受験し、一名が合格、二名が保留、二名が不合格となった。保留者については、改めてレポートが課された。委員会では、再判定する。また今回は他教派よ

りの転入志願者はなかった。前回春季試験ではA、B両コースの受験者の中から多数の不合格者が出たが、今回は概して良い準備がなされ、不合格者が少なく、また保留者も比較的少なかったことは喜ばしい。検定試験では、教師となる上でどうしても理解しておく必要のある基本的な神学の学びについて問われる。今後各受験者が、教師となる自覚のもとに良い準備をされるよう望む。

それでも依然として保留となる者がある。とくに教団教憲教規・宗教法人法、および新約聖書神学の両科目については、基本的な理解を問う問題であるにもかかわらず、学びが不足している場合がある。宗教法人法の知識は教会現場における実務に必須である。新約聖書神学の知識と理解は、説教と伝道牧会にあたり、直ちに問われることになる。Cコース受験については、ギリシア語の合格率が低い。限られたごく初歩的な範囲での出題であるので、時間をかけて少しずつ準備を進めてほしい。また教会史・教理史の知識は神学的思考の基礎となる。日頃の積み重ねが重要である。組織神学の記述も十分な点が見られる。基本的な書物を繰り返し学習し、組織神学的思考を養う必要がある。

そうしたことが積み重ねられていくと、説教や牧会ひいては教会形成へと結晶することになる。今後も個人の学びを進めていくことはもちろん、相互の共同の学びを継続し、研鑽を深めていくことが望まれる。学科試験後の個人面接の前には両会場ですべての受験者、受験志願者と委員全員で懇談の時をもった。これは、検定試験への理解を深めるとともに、よりふさわしい試験のあり方を求めるものである。八束潤一委員長が挨拶し、試験全般について説明した。第一に、検定試験は教団教憲教規と検定規則、および信仰告白に基づいて行われている。第二に、教師検定試験はたんに



全体会での質疑応答 (東京会場)

なる合格だけを目指すものではなく、準備を通して福音の豊かさを学び、人々に届かせるための良い機会でもある。第三に、いま教団において現在の二種教職制度の改革について検討が始められている。最後に、教

憲第九条において「本教団の教師は、神に召され正規の手續を経て献身した者」とされていることに触れ、教師となるにあたり、教団教団における教会の手續きを重んじるとともに、献身と召命の思いを新たにすして、研鑽と学びを続けてほしいと述べられた。委員長挨拶に基づき、受験志願者との質疑応答、意見交換がなされた。

試験後の委員会では、いくつかの点が指摘された。今回、受験者の準備が良く、なされていたことが評価される。また三名の検定委員が教会員の召天に伴い、日程半ばで帰郷するをえなくなったが、今後そうした場合、面接等の職務遂行について、対応が求められる。また現在は東京と京都の二会場に分かれて試験を実施しているが、これを一会場とするのも今後の課題である。検定試験制度を、より細かく定め、規則を整備する必要がある。次期委員会への申し送り等については、時間を改め、別に委員会を開催する。

教師検定試験においては、神学の基本的な知識と理解を問われる。そのいずれも、教師として伝道と牧会の場に立つ上で、欠くことのできないものばかりである。今後、そのための良

の後に選ばれ実務にあたった。信仰告白を基準とする決議は何より、受験生にとって良いことであった。また同時にこの決議は、私たちが教団の中にある多様性や差異を、合同教会の豊かさとして互いに受け入れ、生かすために努力すること求めていると思う。大切な課題であろう。

講評

教師検定委員長
八束 潤一

33総会期委員会として最後の教師検定試験を実施した。

試験期間中、教会員の召天等により三名の委員が途中で不在となる事態が生じたが、委員諸氏の協力により無事に実務を終えることが出来た。働きを終えるにあたり委員長個人として感じたことを述べてみたい。

今期委員会は、32総会期第五回常議員会が行った検定試験の基準に関する決議

い備えをして試験に臨み、主の聖なるみ体である教会に仕えることができるよう、努力していただきたいと願う。
(楠本史郎報)



▼真冬・厳冬とまで評された就職状況に好転の兆しがあるそうだが、しかしそれは大学新卒しかも男子学生の場合。未だ未だ春は遠い。

▼D・ウェストレークに『斧』という小説がある。斧・ズは、首切り・敵首の意味があるそう、発想は日本語と同じだ。主人公は、自分と専門が似通っていて再就職のライバルになりそうな失業者を、偽の求人広告で呼び出しては殺していく。最後に、狙いを定めていた技術者を葬り、その後釜を襲う。小説はその過程と心理を克明に描いたもの。

▼ウェストレークらしいユーモアむしうドタバタ喜劇を期待して読んだのに、最後までドストエフスキーばりにシリアスなままだった。米国の通俗小説に描かれた光景は、日本では一〇年後二〇年後に現実となる場合が多い。『斧』は九七年の刊、不況がこれ以上長引くようだ。▼牧師の世界では五〇代・六〇代での転任も珍しくない。退職金も貰うことだし、世間の目から見れば、退職であり再就職だ。くどいが、五〇・六〇で。まあ、牧師が世間の人から羨ましいと見られるのも悪くはないか。

10

今期の方針・計画を協議

貸出金・援助金等を決定

伝道

第34総会期第一回伝道委員会の欠席で行われた。まず招集者の北紀吉委員長によって一日に教団で開催された。

開会礼拝が行われた後組織委員会に北紀吉委員長、書記に白砂誠一委員が選出された。そして前期委員会報告ならびに申し送り事項が確認された。その後、伝道担当者・渡辺和史委員、土肥聡委員が選ばれた。尚、開拓伝道協議会担当者



伝道委員会、新しい視点を加えて

去る二月二四、二五日、教団会議室にて第34総会期第一回社会委員会を開催した。出席は、招集者・小出望、上地武、小森宏（日本キリスト教社会事業同盟、難波幸矢、張田眞、村田元

台風被害募金の配分決定

委員会の担当・組織を決定

社会

入り、委員長に小出委員を、書記に張田委員を互選。諸報告の後、前総会期委員会よりの申し送り事項を確認した。主な協議事項は下記のとおりである。

〇〇万円を援助することと出することとした。二〇〇五年度開拓伝道援助金申請に対して、次のように決めた。弘前西教会に二六〇万円、坂戸いずみ教会に二六〇万円、我孫子教会に二六〇万円、二宮教会に二六〇万円、大阪聖光教会に二六〇万円、志筑教会に二八〇万円、出雲伝道所に二

〇〇万円を援助することとした。二〇〇五年度エクローフ基金貸付金申請に対して坂戸いずみ教会に対しての五〇〇万円を推薦することとした。次回委員会は「農」協議会に引き続き六月二日、二三日開催予定。（白砂誠一報）



社会委員会、多くの重要な課題に取り組む

お見舞いすることとした。これをもって募金は閉じられる。また、「日本基督教団社会活動基本方針」がはつきりしていない状況下にあつて委員会運営の難しさを感じ、六月、一〇月、二月に委員会を開催することとした。また、「社会委員会通

議の中で、委員それぞれの立場で取り組んでいる社会問題、直面している課題などが紹介され、聞き合った。また、「日本基督教団社会活動基本方針」がはつきりしていない状況下にあつて委員会運営の難しさを感じ、六月、一〇月、二月に委員会を開催することとした。また、「社会委員会通

多岐にわたり実務に取り組む

教育

二月一七日、第34総会期第一回教育委員会が教団会議室において開催された。今期の委員は岸憲秀（招集者、池上信也、加藤誠、久世そらち、真壁巖、宮田登喜子、石丸泰樹（COC関係学校推薦、ただし三月まで）の七名である。

まず委員会の組織がなされ、委員長に岸憲秀、書記が必要があることを確認し

に二〇〇五年度三月八日に開催されるキリスト教教育主事認定試験問題を原案通り承認した後、当日の試験と面接についての打ち合わせを行った。総会期に一度開催してきた公開教育セミナーについては、当初の開催目的が委員の研修であつたことが確認され、今委員会で同じく二年に一度開催されてきた教区担当者会に力を入れる方向で話し合われた。クリスマス献金に

本紙4574号で『信徒の友』創刊四〇周年記念感謝会の報告が掲載された。二回にわたつてその四〇年の歩みを概観したい。

特設委員会として定期刊行物研究委員会が発足したのは、第12教団総会期の一九六三年のことであつた。当時定期刊行物としては、『基督教新報』

「教会婦人」「こころの友」「働く人」「礼拝と音楽」「聖書の世界」「教会青年」等が発刊されていた。これらとの関連を視野に入れながら、信徒雑誌を月刊で刊行する準備が進められた。これにそつて信徒雑誌

『信徒の友』四〇年の歩み(上)

不可思議な摂理が働いて

創刊四月号が本文四〇ページで発刊された。月刊誌スタートに当たり、予算の裏付け、教団・教区レベルでの協力問題等について不安が残存していた、と「一〇年の歩み」(教団出版局編)で回顧されている。今日

「この雑誌に対する教団、教区の関係者の期待と協力はなみなならぬものがあった」(前掲書)。一九六六年四月号から三浦綾子氏による連載小説「塩狩峠」が始まる。頁数も発行部数も増え、『信徒の友』は教団にとどまらず広くキリスト教界全体に広がった。その後、教団はいわゆる

る「教団紛争」に突入していく。『信徒の友』発行一〇周年にあたり佐古純一郎氏は述べている。「教団の混乱を思うとき、『信徒の友』がなかったら信徒の不安はもっと深刻であつたらうと考えられます。……もう少し時機がおくれていたらどうして『信徒の友』の創刊などということは教団では不可能ではなかつたらうかということです。そこ



『信徒の友』創刊号の表紙

『信徒の友』編集委員会 佐古純一郎委員長(当時)



るな対立する立場が渦巻く中で『信徒の友』もその歩みが続けることになった。『信徒の友』編集長・古屋治雄

選出された。続いて前委員会からの申し送り事項が確認された。今期は半数以上が新しく選出された委員というところもあり、委員会の活動についての説明



教育委員会、各委員が複数の実務を担当

受け、今委員会においてもより一層丁寧な取り扱いがなされるべきことが検討された。経費削減の理由で関係を見直さなくてはならない活動もあげられたが、次回委員会で協議することになった。(加藤誠報)

教務教師からの声

心の隙間

塩見 耕一

(北星学園余市高等学校宗教主任)

北星学園余市高校。この何年か「ヤンキー先生」という愛称で義家弘介先生が話題になった学校です。それ以前から高校中退生や不登校経験者などを積極的に受け入れてきた高校です。

転編入制度を設け、こうした生徒たちを日本全国から受け入れ始めたのは今から十八年前でした。このときからこの学校は全国の若者が抱えている問題の噴出する最先端の場となったのです。暴力、いじめ、などはそれ以前からもありました。そうしたことに逃げずに正面から取り組み、生徒たちと

一緒に集団の中で問題を解決してきたという自信があったから新しい歩に踏み出したのです。しかし、そこに集まった若者は義家少年をはじめ心に痛みを抱えやり場のないいらだちを抱えた子ども達だったのです。格闘の日々が始まりました。ありったけの知恵と力を出し合って祈りつつ対決する毎日でした。

時代と共に常に若者を取り巻く最先端の問題がこの学校には持ち込まれてきました。最近の課題は薬物問題と携帯電話の出会い系サイトの問題です。薬物の問題はア

メリカなどでは教育の最重要課題として捉えられているというのを聞いたことがあります。日本でも若者を取り巻く実態を知れば知るほど、驚くほど身近なところにごく当たり前のように存在しているのです。都会も地方も関係ありません。また、最近では心療内科などで大量に処方される抗うつ剤、睡眠薬などの処方薬乱用も大人が気付かない間に急速に広がっています。また、携帯電話から気軽にアクセスできる出会い系サイト、そこにもお金をほしがる女の子の心の隙間につけ込みそれを利用しようとするかまえている醜い大人達が巣くっているのです。たった一度の過ちから管理売春の組織に組み込まれていったり、薬物の地獄に引き込まれていってしまいかねないのです。とにかく若者を取り巻く現代の環境は私達の想像をはるかに超えて危険に満ちあふれています。

危険に満ちあふれたこの状況の中でどのように子ども達を救っていいのか、もちろん全ての子どもがこうした罠にはまってしまうわけではありませんが、心に癒されない痛みを抱えている子、大きな不安を抱えている子、希望を持てずに迷っている子、自分の人生を諦めてしまっている子。こうした子ども達が抱える心の隙間に忍び寄ってくるのです。しかし、思春期のまったただ中にいる彼らにとっ



薬物追放を願っての手形

て、こうした心理状況は決して特別なものではありません。誰にでもその危険性はあります。

北星余市の校歌の最後に「仲間、友情、団結」というフレーズがあります。今時「死語」のように感じるかもしれませんが、しかし、こうした深刻な状況に直面するたびに私達は、糸口はこれしかないという結論に達しています。子ども達の心の隙を狙ってくるこうした問題に立ち向かうには人間関係の中で心の隙間を埋めていくしかないのです。しっかりと仲間との関係の中に立つものは仮面の下に隠れている正体を見抜くことも出来るし、はまりそうになっている仲間を救い出すことも出来るのです。具体的には生活改善運動(日常の生活の細かいところからタメな物はタメと言いつける人間関係作り)の展開などを行っています。寮生活なども含め上っ面の付き合いではやっていけません。

凍り付いたような新入生の表情が雪解けのようにみるみる軟らかくなっていきます。そこには本当に無邪気な少年少女の姿に戻ってきます。未来に目を輝かせるかけがえのない若者がここにもいます。

……日本キリスト教団出版局からのお知らせ……

1997年2月に『讃美歌21』を刊行して以来、今年で8年を迎えます。この間、わたしたちの期待を越えて、何十万という多くの方々に受け入れられていることに大きな喜びと感謝をおぼえます。

1998年5月『讃美歌21略解』編集にあたって判明した作者生没年他の新しい情報を加え、若干の誤記・誤植を「正誤表」という形で公表いたしました。その後、ガリヤの風がおる丘で(57番)の作詞者別府信男氏より、歌詞間違いのご指摘をいただきました。『讃美歌21』の校正の際には、先生ご本人もわたくしどもも見落とししてしまっていた間違いでした。お詫びして次のように訂正させていただきます。「2節(誤)弟子たちによ(正)弟子たちを」。『讃美歌21』本文は2001年12月発行以降の版から訂正させていただきます。

現在し、また訂正の周知徹底が不足しており、皆さまにお手数やご不便をおかけしておりますことをお詫びいたします。これを機会に、再度すべての見直しと点検を行いましたことをご報告させていただきます。

今後とも、『讃美歌21』をよりよいものへと整え、普及につとめてまいります。引き続きご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。そしてこれからも共に神さまへの賛美の声をあげてゆきたいと願います。

本案内および今後の訂正変更情報は、ホームページ <http://www.jp.ncj.or.jp> にも掲載いたしますのでご参照ください。

日本キリスト教団出版局
局長 秋山 徹
日本基督教団讃美歌委員会
委員長 今橋 朗
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18、☎03-3204-0482(2005年3月10日～5月9日)

**四月から更に有利になる
会堂共済組合の制度**

全てのご契約について補償対象が広がります。特約の分担金は不要ですが、ご契約更新時から料率が改定されますが、ここであらためて確認させていただきます。

「誤マリアより(正)マリアから」
版によって訂正されているものとそうでないものがあるものとすでないものが



及川美穂子さん

キリスト教保育者として立てられて



1925年、岩手県生まれ。学校法人恵愛学園三鷹小鳩幼稚園々長 久我山教会会員

美穂子さんは、今年、キリスト教保育者として立てられて六〇年を迎える。

美穂子さんは、はじめから保育者を目指したわけではなかった。文学、特に国文学に魅せられて青山学院の文科に進んだ。しかし、戦争末期の学校では学問を学ぶことは能わなかった。軍事工場、農家の勤務奉仕に明け暮れた。八月一日が過ぎて、九月にわずかばかりの補習があつて卒業ということに。母の故郷に帰省していた折、岩手・水沢教会の保育園での働きの道が開かれた。

保育を専門には学んでいない。試行錯誤のスタートだった。二〇名弱の子供たちを一人で保育した。終戦直後の混乱期、食料面でも、衛生面でも課題が多かった。けれども、美穂子さんには体に染み付いたキリスト教、そしてこの信仰に根ざした保育があつた。父、佐野源一郎牧師の転任に伴い、結婚まで四つの教会を経験した。磐井クリスチャン教会、日黒クリスチャン教会、奥沢教会、水沢教会。美穂子さん自身は、日黒クリスチャン教会で幼稚園入園を迎える。また奥沢教会では、日曜学校を通して教会に多く集っていた青年たちから良い感化を受けた。そのような幼児期、少女期のキリスト者との触れ合いが、美穂子さんの保育者としての土台を築いた。水沢教会では、生涯の伴侶となる泰夫氏との出会いがあった。泰夫氏の三鷹・相愛教会着任とともに美穂子さんの武蔵野の地での生活がはじまり、以来五〇数年をこの地で過ごすことになる。

美穂子さんが幼稚園教諭として最初に就任した相愛幼稚園も、後に転任した三鷹小鳩幼稚園も、所謂、教会付属ではない。伝道という面では難しさもあった。しかし、園児が祈りを覚えてくれるのは大切なことと思ってきたと美穂子さんは言う。子供たちの祈りを書き留めた母親たちのメモをうれしそうに見せてくれた。園長を務める幼稚園は創立五〇周年を迎える。

「こんなには」と言いつつ五人の子ども達が園長室にやってくる。毎年青になると、卒業する子ども達と園長が会食するのである。「Aちゃんも来たよ」と言いつつ、女の子がAちゃんをソファに座らせている。Aちゃんが座ると隣の男の子がAちゃんのカバンからお弁当を出してあげる。用意が出来たので、感謝のお祈りをして食べ始めるのであった。子ども達はいつもと違う園長室でのお弁当で、なんとなく興奮している。おしゃべりばかりしてお弁当が進まない。それでいてAちゃんには食べられないことを促すのであった。幼稚園には障がい児が七人おり、共に園生活をしている。園児達はこれらの子ども達を自然に受け止めており、いつも二、三人の親衛隊がいて、何かと世話をしあっているのである。ある時、転園してきた子どもが、障がい児をみて思わず「ヤダー」と言った。その子は初めて接したのである。しかし、その後園生活をしているうちに、彼も親衛隊の一人になっていった。統合教育の深い恵みを示めされるのであった。

障がい児が一緒だという理由で入園を敬遠する保護者が多い。キリスト教主義の幼稚園は園児数も少なく、経営には頭を痛めながらも、しかし統合教育を推進しているのである。教団には全国教会幼稚園連絡会という組織があり、孤軍奮闘する教会幼稚園が連絡を取り、学習をし、使命を深めている。分け隔てせず、共に生きる子ども達の成長を祝福したい。

(教団総会書記 鈴木伸治)

みんなともだち